

大阪アミューズメントメディア専門学校
第1回学校関係者評価員会報告書
(令和5年度)

学校法人吉田学園
大阪アミューズメントメディア専門学校

令和5年8月25日
学校関係者評価委員会

学校法人吉田学園 大阪アミューズメントメディア専門学校
令和5年度 第1回学校関係者評価委員会報告書

学校法人吉田学園の学校関係者評価実施規程に基づき、大阪アミューズメントメディア専門学校 学校関係者評価委員会を実施いたしましたので、次の通りご報告いたします。

実施日時：2023年7月19日（水）17：30－19：00

実施場所：大阪アミューズメントメディア専門学校6階ライブラリー

外部委員：辻井安喜 学校法人 浪工学園 星翔高等学校 常務理事・校長
大西開 株式会社共立メンテナンス 寮事業本部 関西支店 支店長
藤井美樹 株式会社界グラフィックス 人事課
山光咲良 大阪アミューズメントメディア専門学校 声優学科卒業生

事務局：森憲司 大阪アミューズメントメディア専門学校 学校長
下間正巳 大阪アミューズメントメディア専門学校 教務部長
中島正貴 大阪アミューズメントメディア専門学校 教務部長
朝日庸平 大阪アミューズメントメディア専門学校 事務局 副部長
飯間陽子 大阪アミューズメントメディア専門学校 学生課 課長
岩本真穂 大阪アミューズメントメディア専門学校 キャリアセンター課長

議事進行：朝日庸平

次第：（1）令和4年度 自己点検・自己評価報告

- | | |
|-------------|-------------------|
| ①教育理念・学校運営 | [森学校長] |
| ②教育活動等 | [下間教務部長 / 中島教務部長] |
| ③学修成果 | [岩本キャリアセンター課長] |
| ④学生支援 | [飯間学生課課長] |
| ⑤学生の受け入れ募集等 | [朝日事務局副部長] |

(1) 令和4年度 中間報告

令和4年度自己評価報告書をもとに、各担当者より前年度の振り返りと報告がなされた。

①教育理念・学校運営 [森学校長]

本校の理念である産学共同・現場実践教育に則った独自の仕組みにより、エンタテインメント業界の即戦力となる人材の育成を行っている。この仕組みは30年間で洗練され完成形に近いという手応えを得ている。

また、業界の性質上、多くの学生が制作会社の集中する東京への進路をとる。しかし、大阪に構える専門学校としては、学んだ技術と知識を活かせる関西圏の進路を提示できる必要があると考えている。大阪独自の取り組みとして、関西のクリエイティブ企業との関係性の開拓を進めていく。

【質疑応答・感想】

- [辻井委員] 点検評価の数値指標はどのようなものか。課題に対してこれを達成できたから4、できなかったら3というような客観的な評価が望ましい。
→ [森学校長] 総合的で抽象的な表現になっている部分がある。マイナスポイントを端的に記載し読み手が理解しやすい表現に務める。
- [大西委員] 建学の原点と教育理念に則った育成指導が、在校生と卒業生の活躍に繋がり、結果的に次の入学につながるという好循環が素晴らしい。時代が激変する中で教育理念や実践している教育手法の将来像を定めることが今後の課題になると感じた。また職員の働き方について、学生とのコミュニケーションに時間を割かれると思われるが、それがより円滑にまわる体制を時代に合わせながら築いていただきたい。
→ [森学校長] 基本的には厳しい校風を守り続ける方針で運営していく。
- [藤井委員] 産学共同でより現場に即した制作を実現していることがゲーム制作会社としては高く評価できる。エンタテインメントの技術的な進歩により求められるレベルも上がって行く中で、プロとして活躍できる人材を育成できていることは非常にありがたい。
- [山光委員] 声優学科の卒業生として、AMGの厳しい校風は業界の仕事現場や、他の専門学校の卒業生比較したときにアドバンテージであり、在校中に仕事として制作に関われることは、プロ意識を育てるとともに、活躍する先輩声優と共演することで、具体的な目標設定と自信に繋がると感じている。また、制作業界の遠い大阪で学んでいながらも、先輩方や教務、講師の方々によって東京の人たちと変わらない情報量があったため、

卒業後もしっかり判断できた部分が多い。ただし、東京と大阪の連携の部分や卒業生のケアについては、周りの卒業生を見ていると、強化の必要性を感じる。在校中に東京校との関わりも少ないため行きづらく、情報も不足している。在校中に東京校の教員とコミュニケーションがとれる機会を作ってはどうか。

→[中島部長]昨年度まで東京校にいた職員としては、大阪校の学生や卒業生が来てくれることはいつでも歓迎しているが、ご指摘の通りスタッフを知らず関わりづらい部分も認識している。私が大阪に来たように、大阪から東京に行った職員も数名いるが、今後改めて連携整備に努めていく。

→[森学校長]卒業生コミュニティでより情報が伝わるように、OBOG ネットワークの拡充に取り組んでいる。今後さらなる枠組みの強化を検討していく。

②教育活動 [下間教務部長・中島教務部長]

本校では開校以来一貫して、産学共同・現場実践教育を軸に戦力となる人材の育成を目標としてきた。職員、講師と常に連携をとり、業界で今何が求められているかを確認しつつカリキュラムの編成等を行っている。カリキュラムの構成については、学生の目指す進路に合わせた業界現場で必用とされる知識技術を体系的に修得するカリキュラムの構成を目指していく。課題としては昨今の ChatGPT や生成 AI などといった非常に早い技術進歩への対応が挙げられる。これに関しては既に専門知識を持った講師や外部アドバイザー、あるいは業界の動向を逐次観察し、必死に追いついていく努力が必用と考えている。また、今後どのような展開をしていくかを先読みし人材の登用を図り対応していく。

資格の項目について、軒並み低い点となっている。これは、エンタテインメント業界の進路に有利な資格があれば資格取得も考慮するが、2年間という教育の中で、重視すべき資格がないと判断した結果である。したがって取得すべきと判断する資格が今後出れば検討するが、現状は資格よりも実務的な能力を重視している。職業実践専門課程について、諸整備を昨年から開始し、今年申請をする予定となっている。

【質疑応答・感想】

■ [辻井委員] 3-2-5 授業評価の実施・評価体制はについて、授業アンケートの記述方法はどのようなものか。また結果をどのように活用しているか。

→ [下間教務部長] 自由記述ではなく、各項目を数値化し集計している。アンケート結果は各講師に開示し、改善すべき点などを検討する。当然、学生の評価が直接授業の評価となるわけではないため、あくまでも判断材料の一つとして扱っている。

→ [辻井委員] 全体として学生はどの程度 AMG の授業を支持しているか。

→[下間教務部長]全体としては、大半の学生が真ん中よりも良い方に評価している。ただ、実際には数値よりも記述の内容をみており、例えば、この単元はゆっくり進めてほしいなど、生の声を汲み取るのに役立っている。

■[大西委員]授業評価アンケートについて、毎年実施している中で見えてくる学生側の思考や傾向、トレンドの変化などはあるか。

→ [下間教務部長] 昨年は回復傾向ではあるものの、コロナ禍で授業に出ることができなかった学生がおり、授業への関わりの差が大きかったものが、徐々に通常に戻ってきている印象を持っている。また、以前からも潜在していたはずだが、最初から集団行動についていけない学生の存在がアンケートによって見えてくる部分はある。

■ [藤井委員] インターンシップ参加前のガイダンス強化し、より学びにつながるような姿勢や参加する意義を理解してもらいたい。インターンシップに関する相談をいつでもできる場所があると良い。また、学生がオンライン参加するためのスペースがあるとより良い。

■ [山光委員] 自分も授業評価アンケートを提出したことを覚えている。今にして思い出すと、当時の好みによって偏る部分があり、学生ごとに評価は様々だった。学生の頃は講師の指導が業界のニーズに合っているかもわからないままだった。講師や授業方法の選定はどのように行われているのか。

→ [下間教務部長] 自分を含め多くの職員が、業界で働いていた経験がある。実際の動向を鑑みて、学生に人気は出ないとは思いつつも、絶対に必用という授業はあり、学生が受け入れやすい授業方法を考えている。

→ [中島教務部長] 声優学科に関しては、自分の演じたものに対して講師から直接駄目出しをされると、自分の人格を否定されたと感じ取る学生が多い。優しい厳しいなど様々な講師がいる中で、個人の特性を配慮しつつ、科目に必用な部分で最も力を発揮されるよう適材適所の配置を行っている。授業評価アンケートを参考に、講師の科目に対する適正も見ながら調整をしている。

→ [下間教務部長] 参考までに、低く評価した科目が卒業後に役立った経験はあるか。

→ [山光委員] 当時の評価内容については定かではないが、学生側は評価という意識は低く、アンケート利用用途などは深く考えずに回答していたと思われる。日頃のコミュニケーションで先生の人気差が出そうという印象は受けた。

③学習成果 [岩本キャリアセンター課長]

4-2 資格・免許取得率に関しては、先程下間より報告した通りとなっている。4-3 卒業

生の社会的評価については、これまで卒業生との関係性は職員との個人的な結びつきに起因する部分が多く、関わりの深かった職員の退職などにより、途切れてしまう事があった。三年前からデータベースシステムが導入されたことで、在校時の様子や出席率などを統合管理できるようになり、卒業生の連絡先や就職先の情報についても継続的に登録し一元管理できる体制が整った。今後過去の卒業生についても情報入力を進めていく。コロナ禍で大規模な招聘は叶わなかったが、今年からは徐々に再開し、東京校と合同でOBOG向けのAMG通信の発行を企画している。4-3-2については、学生からは概ね高評価を得ている。去年よりキャリアセンターのクラスルームを開設したことで、声優学科等の学生も就職系学科と同じように面接練習や書類添削を行いやすくなり、学生にも広く周知されだしたと感じている。

【質疑応答・感想】

- [藤井委員] 採用側として、実際に校内でクリエイター面接を行うと、学生と直接会話ができ得られる情報は多い。クリエイティブ業界以外の就職は、どのような業界を希望する学生多いか。
- [岩本キャリアセンター課長] 大きく2つあり、1つは接客サービス業を含む販売職。これはアルバイト経験や自分の趣向から自分の適性を感じ、希望する人が多い。たとえばノベルス文芸学科の学生が本屋さんへの進路を希望した場合は、書店や書籍商材を扱う企業への就職をサポートしている。もう1つは内向的な学生が、製造業や事務職などの職種を選ぶことが多い。そういった業界であれば残業などが少なく、就職したあとも漫画や小説の執筆活動が続けられる環境を確保したい学生が多く希望している。
- [大西委員] 経験上、学んだことを違う形でも活かすという考えは大事。OBOGはある意味で学校の財産であり資産でもあるため、AMG通信は是非実現していただきたい。

④学生支援 [飯間学生課課長]

入学希望者の相談を受ける中で、経済的に困窮している方の相談が目立っている。志望度が高く優秀な生徒であっても、経済的な問題で進学を断念するケースが多く見られていたが、昨今は奨学金制度の拡大を背景に、金銭面に懸念のある方も進学の可能性が増加している。制度を利用できることを知らなかったとならないように、在校生や入学検討への周知を徹底していることで、本校は高等教育の修学支援新制度による授業料減免費補助金額が大阪府下でも高い状況となっている。また、来年度より中間層への支援拡大のための制度改定を予定していることなどもあり、情報発信の強化と内部の情報共有の強化に取り組んでいる。5-2-3について、毎年健康診断を実施し

ており、緊急を要する問題があればクリニックより連絡が入る仕組みを取っているが、校内に保険医が在中しているわけではないため低い評価としている。学生の生活環境への支援については複数の企業に協力いただき、卒業までの2年間を見据えた情報提供を行っている。また、昨年度から本格的に留学生の受け入れを開始している。昨年度入学した留学生はいなかったものの、今後増加すれば従来と全く違った対応が必要となることが予想されるため、さらなる連携強化が必要になると考えている。防災に関して、コロナ禍が社会的に収束傾向となりつつあることを受け、今年度は学校全体での避難訓練を実施した。

【質疑応答・感想】

- [辻井委員] 組織的に学生の支援に力を入れているという印象を受けた。5-2-6 退学率の低下について詳細を伺いたい。
- [森学校長] 進級率は学科によって若干のゆらぎがあるものの90%程度となっている。卒業までになるとそこから5%ほど下がる。
- [下間教務部長] ここ3年程度で、それ以前の3年間と比較して3割程度改善している。

⑤学生の受け入れ募集等 [朝日事務局副部長]

職業に対する先入観が先立つ分野を扱っていることから、対象者と接する機会にはより実際の制作現場に即した専門的な体験講座や授業に触れてもらうことで、本来の職業感を伝えている。加えて中学校、高等学校に伺っての体験授業や講話の中でも、職業理解を深められるよう努めている。また、専門学校の通例では30%から35%程度が来校者に対する出願率と言われているが、本校では50%以上となっていることからミスマッチを防げていると考えている。ただし、昨年度の声優学科の学生募集人数を60名削減したため、全体定員480名に対しての定員充足率は80%まで落ち込んでいる状況。

11 国際交流について、前項の学生支援であったとおり留学生の問い合わせは増加しているものの、受け入れには至っておらず、交流はできていないため1点としている。現在積極的に留学生受け入れ環境を改善しており、今後点数を上げられるよう動いている。

【質疑応答・感想】

- [朝日事務局副部長] 声優の学生募集人数を大幅に削減したことについて、なにか業界で変化が起こればお聞か頂きたい。

→ [山光委員] 上京後に声優業界へ入る課程での個人的な感覚としては、声優としての技術があるだけでなく、外国語を扱えるなど、一見声優に直結しない様々な方面の能力に富んだ人材が、業界で求められていると感じた。有名大学卒やなにか資格を持っている人など、様々な経験のある人たちがいる中で仕事を勝ち取って行くためには、そういった付加価値が必用と考えている。

以上

大阪アミューズメントメディア専門学校
第2回学校関係者評価委員会報告書
(令和5年度)

学校法人吉田学園
大阪アミューズメントメディア専門学校

令和 6 年 2 月 7 日
学校関係者評価委員会

学校法人吉田学園 大阪アミューズメントメディア専門学校
令和 5 年度 第 2 回学校関係者評価委員会報告書

学校法人吉田学園の学校関係者評価実施規程に基づき、大阪アミューズメントメディア専門学校 学校関係者評価委員会を実施いたしましたので、次の通りご報告いたします。

実施日時：令和 6 年 2 月 7 日（水）17：30－19：00

実施場所：大阪アミューズメントメディア専門学校 6 階ライブラリー

外部委員：赤松加枝子 大阪放送株式会社 コンテンツプランニング本部
プランニング部長
大西開 株式会社共立メンテナンス 寮事業本部 関西支店 支店長
藤井美樹 株式会社界グラフィックス 人事課

内部委員：森憲司 大阪アミューズメントメディア専門学校 学校長
下間正巳 大阪アミューズメントメディア専門学校 教務部長
中島 正貴 大阪アミューズメントメディア専門学校 教務部長
朝日庸平 大阪アミューズメントメディア専門学校 事務局副部長
飯間陽子 大阪アミューズメントメディア専門学校 学生課課長
岩本真穂 大阪アミューズメントメディア専門学校 キャリアセンター課長

議事進行：朝日庸平

次 第：(1) 学校長挨拶

(2) 令和5年度振り返り

①授業運営

[下間教務部長]

②就職状況

[岩本キャリアセンター課長]

③入学生募集状況

[朝日事務局副部長]

④学生支援

[飯間学生課課長]

(3) 令和6年度学校運営について

[森学校長]

(1)学校長挨拶

一ヶ月後の3月7日に卒業式を控え、令和5年度の学校運営も最終局面を迎える。就職系のゲーム、キャラクターデザイン、アニメーション、一部出版学部に関しては秋口から就職活動の最終調整を行っているところになる。声優学科は1月から2月がプロダクションオーディション時期であり、現在学生とともに奮闘しており、それぞれ例年に劣らない実績を今年も残すことができると考えている。新入生の募集状況については、昨年度厳し状況に陥っていたが、新設した動画・配信クリエイター学科も目標通りの募集を達成し、学科全体においても校舎定員に対し100%近い充足率となる見込みとなっている。近年の高校生の興味の多角化を強く感じており、その答えの一つが動画・配信クリエイター学科の設置であるが、今まで学校の根幹として運営していた声優学科に関しても、新年度からは選択制のカリキュラムを導入し、状況によっては再来年度以降の専攻制の導入を検討していく。

(2) 令和5年度振り返り

令和5年度第1回学校関係者評価会議の内容を踏まえ、令和5年4月1日から令和6年1月31日までの、一年間の振り返りと報告がなされた。

①授業運営 [下間教務部長・中島教務部長]

①-1 カリキュラム編成について

新型コロナウイルスが 5 類に移行したとは言え、引続き感染対策に留意しつつの授業運営となった。幸いここまでコロナによる授業への大きな支障はなく、また教育の質についても概ねコロナ禍以前と同様のレベルでの授業を実施することが出来ている。2024 年度については動画・配信クリエイター学科が開講し、声優学科では選択制の授業がスタートする。今後も入学対象者のニーズの多様化や生成 AI など社会の変化に対応すべく、専門家のご意見を頂き継続的なカリキュラムの見直しや専攻の設置等の検討を進めていく。

①-2 関連分野における実践的な職業教育について

建学の理念である「産学共同・現場実践教育」に基づき、インターンシップとして在校生を目指す業界の現場に送り出し、実践的な経験を積ませている。また 2024 年度に向けては、企業と連携して実務の実践的な教育に取り組んでいる専門学校が認定を受ける、「職業実践専門課程」を申請している。この認定により、改めて本学が行っている実践的教育の質が保証される事となる。

①-3 成績評価・単位認定、進級・卒業判定について

学則変更に伴い成績評価は今年度より後期のみの実施とした。

但し奨学金の受給に関連し、出席状況の確認は前期でも実施している。

今年度の進級・卒業認定会議は以下の日程で実施する。

・卒業認定会議 2 月 19 日

・進級判定会議 3 月 15 日

①-4 令和 6 年度 重点目標

- ① 生成 AI に関連する指導内容の検討と次年度に向けての精査を行い、生成 AI ポリシーの作成を行う。
- ② 来年度より留学生の入学にともない、留学生への教育環境の整備を目指す。
- ③ 学生のメンタルケアに関する研修等の対応。学生のメンタルケアの必要性の増加と、それに伴うスタッフの負担も増加している背景から、専門家に意見を仰ぎ対応を検討していく。

【質疑応答・感想】

- [赤松委員] 新しい事柄への挑戦がうかがえる。声優学科の選択制とは具体的にどのようなものか。

→ [中島部長] アーティスト職を希望する学生が在校生にも多く見られる。現在は歌唱、ダンス、演技を柱にすべて取り入れているが、将来的に学生が希望する分野を専攻できるカリキュラムを準備している。アフレコを主とする声優業だけではなく、タレントや歌手といった学生のニーズに対応するための編成となる。

→ [森学校長] 声優の仕事の範囲が広がって見えるため、このようなニーズが増えている。あくまでも声優としての技術をベースに、目指す分野を深掘りできる体制を構築している。

■ [大西委員] 来期に留学生が入学する学科はどこか。

→ [中島部長] キャラクターデザイン学科、ノベルス文芸学科、マンガイラスト学科、ゲーム・アニメ 3DCG 学科に合格者がいる。現在 2 期募集において声優学科にも受験者がいる状況。

→ [森学校長] 定員充足のために幅広く留学生をとる学校もあると聞くが、本校では志のある優秀な留学生のみを獲得するため、厳しい言語試験等も実施した上で受け入れを行っている。

②就職状況 [岩本キャリアセンター課長]

②-1 就職状況（実績）について

今期と過去 3 年同時期の就職率比較は表の通り。

②-2 業界の求人動向について

内定率は昨年同時期と比較して低下した学科が多い。例年であれば 1 月までに一般企業に進路を変更する層が、今年は卒業直前までクリエイター職を目指して就活を継続していることも要因とみられる。また昨今、国産モバイルゲームの売上が頭打ちとなっていることは、新卒採用にマイナスの影響を与える可能性が高いため今後の動向には注意したい。

②-3 卒業生の社会的な活躍について

母校への帰属意識を感じてもらうことを目的として、今年度から AMG 会報の企画

がスタートした。卒業生を対象に AMG グループの産学共同事業、在学生の就職、デビュー情報をメールと会報（紙面）として発信する。また今年 11 月には AMG グループ創立 30 周年記念パーティーの開催が予定されており、卒業生とも交流の機会が持たれることとなる。

②-4 令和 6 年度 重点目標

- ① 動画・配信クリエイター学科に関連する分野の企業開拓。
- ② 広告・デザイン企業を対象とした採用イベントの規模拡大。
- ③ 留学生を含め、学生の多様性に配慮した就職支援の体制整備。

【質疑応答・感想】

- [藤井委員] ゲーム業界の動向について、大手パブリッシャーが社内体制変更のため、社内の人員を動かすためデベロッパーに仕事が回ってこない状況となっており、デベロッパーも採用人数を減らしているという話もある。クリエイターを目指す学生が多くいることから、業界側としても施策の必要性を感じた。学校側としては授業の内容や、2D モバイルゲームの頭打ちを受けて作品の調整などは行われているか。
→ [岩本課長] 2D は一時期のソーシャルゲームバブルのような状況が落ち着きだした頃から、企業の採用枠が少なくなってきた。2D イラストに限らず、比較的採用ニーズの高い UI デザインや 2D モーションなどのスキルも習得することでゲーム業界への就職を叶えている。またそれ以外の業界の就職先として、広告、印刷系企業のみを対象とした学内面接会を開催するなどしている。

- [赤松委員] 前回の会議で掲げていた、卒業生を対象とした学校コミュニティの設立が順調であることが確認できた。声優はオーディションの時期が遅いため、途中で一般企業に進路変更する学生への対応はどのようなものか。
→ [岩本課長] 計画をたてられていないことが多く、個別の対応となることが多い。精油学科でも就職を希望する学生がいれば、キャリアセンターのクラスルームに参加し、学内説明会からの内定を目指す。
→ [中島部長] ご指摘の通り声優の就職活動の開始は遅く、学科としてもプロになる姿勢は崩さず、進級時に少しでも一般就職の可能性のある学生には面談を繰り返し、キャリ

アセンターと連携を取りながら様子を見ることになる。

③入学生募集状況 [朝日事務局副部長]

③-1 学生募集状況（入学者数実績）について

入学者数は一昨年の同時期と比較しても増加しており、例年の一般願書提出状況を踏まえても、定員充足率 90%以上は維持できると考えている。また、2024 年度より新設開講の動画・配信クリエイター学科において、現時点で 25 名の入学予定者が居ることから、業界志願者の需要に即した新入生募集活動が適正に行われていると判断している。前年比 30%の上乗せとなり、コロナ前の数値には及ばないが近年比較で向上している。

③-2 特待生入試運営について

全体の受験者数は昨対比+57 名と大幅に増加。第三期の追加募集を実施した 2021 年度生と比較してもほぼ同数と過去最高の受験者数となった。学費免除をメリットと捉える声も多いが、同様に意欲の高い受験者が大半を占めていることから、制度の周知・浸透が進んでいると思われる。

③-3 高専接続・中学校対応について

今や世界基準である日本の制作現場を目指す意識の高い留学生を積極的に受け入れ、優秀な人材の育成・輩出することを目標とし体制の整備と募集活動に取り組んできた。留学生入学第一期募集において、厳正なる入試選考を実施した結果、合格者は 4 名。合格者への最終意思確認を行いながら入学に向けて適切な事務手続きを進めていく。また、留学生入学第二期募集においても 1/31 現在で 2 名の出願があるため、第一期募集同様に適正な入試選考を進めていく。

③-4 令和 6 年度 重点目標

- ① 定員充足率 90%以上の維持。
- ② 留学生選考及び在籍管理などの受け入れ体制強化。入学基準は変えずに間口を広げることによって受験者数の向上を目指していく方針。

- ③ 即戦力人材となる再進学者（既卒生）の受け入れ強化。リスキリング等で再進学者の割合が全日制としては非常に高い数値となっている。受け入れを強化し、即戦力となる人材を育成していく。

【質疑応答・感想】

- [大西委員] 入学予定となる留学生は、どのような状況の方か。海外から直接留学されるのか。
- [朝日副部長] 1名は母国から留学で入国され、1名は大学院に在籍している学生。その他は日本国内の日本語学校に在籍している学生。
- [藤井委員] 再進学者の受け入れ強化は、即戦力を求める企業としてはありがたい。具体的にどのような強化を検討しているか。
- [朝日副部長] 再進学者向けの入学制度を新設した。現状 15%の再進学者がいるが、今まで募集強化して来なかったため、認知拡大のため打ち出し方を変えることとなる。
- [藤井委員] 学科によつての傾向はあるか。
- [朝日副部長] 法人校化以後 8年間の平均では、ノベルス文芸学科とゲーム・アニメ 3DCG 学科が多く 20%強となっている。

④学生支援（飯間学生課長）

④-1 防災に対する体制整備について

コロナ禍には避難訓練実施を見送っていたが、淀川消防署の協力のもと、4年ぶりに東中島公園を使用して行った。事故もなく終了し、設備の扱い方を見直す良い機会となった。学生も消防士による水消火器を使った消火訓練に積極的に参加していた。今後は火災に限らず、発生が予想されている南海トラフ大地震やその他災害からも人命を守り、被害を最小限に抑えるための環境設備の増強、職員の知識と意識の向上に努めたいと考える。

④-2 修学支援新制度(高等教育無償化)利用状況について

《令和5年度》

対象人数 1年：72名 2年：64名 合計：136名

授業料減免 65,852,600 円

入学金減免 6,101,000 円

減免合計 71,953,600 円

《令和4年度》

対象人数 1年：86名 2年：69名 合計：155名

授業料減免 73,371,200 円

入学金減免 7,034,700 円

減免合計 80,800,900 円

令和6年度から授業料減免が多子世帯の中間層に支援対象を拡大される。制度の理解を深め、適切な告知と運営に尽力する。

④-3 入学式及び卒業式等の式典運営について

今年度の入学式は、新型コロナウイルス感染症対策はしっかり行ったうえ、全学科合同の1部制、ご来賓祝辞も映像ではなく登壇しての挙行し、無事終了した。

卒業式も同様に全学科合同で実施、5年ぶりに卒業記念パーティーも開催予定である。コロナ禍の高校生活を過ごして入学した学生に、学生生活の最後の良い思い出となるよう、可能な限り制限を解除しつつ安全な運営に努めたい。

④-4 令和6年度 重点目標

- ① 奨学金、修学支援新制度の周知と適切な運営。
- ② 留学生対応力の向上。対象者の状況によって対応が全く変わり、必要な手続きも変わる。入学後もビザの更新や出席率や就労時間の管理など、日本人の学生管理と違った対応が必要になるほか、2年後には就職ビザの対応もあるため対応力の向上は急務と考えている。
- ③ 防災対策の充実。昨今の状況を鑑みると備蓄整備などを進める。

【質疑応答・感想】

■ [赤松委員] 公的な修学支援を受ける中で漏れのないようシステム導入は有効と考える。また防災については自然災害も多いため、避難訓練の際に津波などにも備えて準備をする必要がある。

→ [大西委員] 弊社でも先月防災訓練を実施した。また能登半島地震では弊社の一部ホテ

ルが被災した。拠点が複数ヶ所あれば連携をとることで客観的な状況判断ができ、3日程度で外部からの支援体制を整える事ができる。

→ [朝日副部長] 南海トラフでは最大2階までの浸水が想定されるため対応できるシナリオを検討する。また、東京の学生課職員同士で備蓄等を検討しているため参考にさせていただく。

⑤令和五年度学校運営について（森学校長）

近年入学者数も増加しており、社会的責任も重くなってきていることを痛感している。そのような中で、今年度の目標は進路の充実という指針を示した。これは就職率何%を目指すというのではなく、一人ひとりの学生に向き合って支援を行うというもの。キャリアセンターと担任が連携して、個々の学生にあったオーダーメイドの指導を行うことで就職目標の達成を目指す方針を取っている。そうした中で人数が増えるとしても目標を諦める学生の割合が増える傾向がある。継続的に80%程度は卒業しているため、決して悪い数値ではないが、業界定着率にも気を配り、学生個人の適性を見ながら指導していかなければならない。卒業してからの相談窓口を設けているが、まだ定着率は低い。プロをめざすためのカリキュラムは日々改善しているが、そのカリキュラムの中で人間力を磨き将来の目標を定める必要のある学生も一定いると感じている。また、1割弱程度は精神的に配慮が必要な学生もいるため、本来専門学校の範囲ではないが、社会人として独り立ちできるようにフォローが必要と考えている。来年度は新たに事務局内に保健衛生課を設置し、メンタルヘルスの外部アドバイザーから助言をもらい、担任が指導に活かせる状況を構築していく。また、メンタルケアが必要な学生は学んだことが役に立つ企業の開拓も並行して行っていく。コミュニケーションを重視し担任とキャリアセンターの増員を行い体制強化、安定した運営を目指していくため、引き続き皆様のご助力をお願いしたいと考えている。本日もご出席いただいた委員の皆様におかれましても、引き続きお力添えをよろしくお願いいたします。

以上